

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 内 藤 留 幸
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印刷所 株式会社きかんし



越谷教会 (関東教区、埼玉地区)

新春 メッセージ

詩編124編1～8節

それでもわたしは断固たる告白へ！



石橋秀雄

2012年新しい年の歩みが始まった。
わたしたちは、年の初めに、新しい一日の始めに、全ての業の始めに「わたしたちの助けは天地を造られた主の御名にある」(詩編124編8節)との御言葉が響きわたるその確信の中で歩みだすことが出来る。

2012年新しい年の歩みが始まった。
わたしたちは、年の初めに、新しい一日の始めに、全ての業の始めに「わたしたちの助けは天地を造られた主の御名にある」(詩編124編8節)との御言葉が響きわたるその確信の中で歩みだすことが出来る。

地震直後、被災地の教会を訪問した後に教団議長声明を出した。その冒頭に掲げた御言葉が、詩編124編8節の御言葉である。

それでもあなたは

3・11・246

この時を忘れることが出来ない。
あの巨大地震とその地震

大船渡に住む越谷教会の信徒から津波の直後に電話をもらった。「神のなさることは素晴らしい」と、すぐに「それでは何故、教会に行っていますか」と衝撃を受けた。

地震直後、被災地の教会を訪問した後に教団議長声明を出した。その冒頭に掲げた御言葉が、詩編124編8節の御言葉である。

主の死を見つめる

東日本大震災と二次災害の福島原発の事故によって日本の国は揺り動かされ、また日本の教会も揺り動かされている。
素晴らしい津波の破壊の只中に立って、「まさに戦場のよう」と報道された地に立ち、わたしの主の十字架の言葉を聞き、主の死を見続けた。

『エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ』これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マルコ福音書15章34節)
わたしは、悲劇の地に立

い破壊の現実の中で神を信じていることができるのかと問われる。
写真家藤原新也さんがアエラの4月11日に東日本大災害の写真と言葉を記している。

津波の凄まじい破壊の写真に付されている言葉は「全土消滅、昭和消滅、神様消滅、独立歩」とあり、この地獄図の中で「人間の歴史の中で築かれた神の存在を今、疑ふ」と記し、「神という存在はなかった、ただそれだけのことだ」と結論づける。このような、神

が否定される現実の中で、わたしたちの信仰が揺り動かされる。
この地獄図の中で「それでもあなたは神を信じますか」と問われる。この問いは旧約聖書の歴史、二千年の教会の歴史の中で、神を信じる者に常に問い続けられてきた問いである。
戦争と災害、すさまじい破壊と、破壊がもたらす悲劇を経験した信仰者が「それでも神を信じます」という断固たる確信とその信仰の告白が、詩編124編8節でなされている。

驕り高ぶる大水

わたしたちの教会で「もし主が味方でなかったら、とくにわたしは死んでいました」という証しを聞くことがある。

124編の詩は、素朴な信仰が歌われ感動させられる。「主がわたしたちの味方でなかったなら...そのとき、わたしたちは生きながら敵意の炎に吞み込まれていたであろう」(詩編124編1節～3節)

イスラエルの歴史は常に様々な危機に翻弄される歴史であった。
大国の圧倒的軍勢力によって国が脅かされ、命が脅かされる危機の連続の中にある歴史だ。それ故もし、主が味方でなかったなら...と告白される。

さらに「主が味方でなかったなら」大水がわたしたちを押し流し激流がわたしたちを越えて行ったであろう...驕り高ぶる大水が(詩

死んでくださった、墓に納められた。
この墓から神の創造の業が強烈に示される、神は絶望の中に働く神であることが示される。主イエス・キリストの死を見つめ続ける時、復活の希望に導かれ、「わたしたちの助けは天地を造られた主の御名にある」(詩編124編8節)との告白へと導かれる。

東日本大震災への取り組みがこの詩編の言葉の確信から始められ、やがて断固たる確信に導かれることを信じて、その対策をなし、教団の歩み、教会の歩みをなしていききたい。

(教団総会議長・越谷教会牧師)

荒野の声

▼D. R. クインツが、小説「オッド・トーマスの救済」ハヤカワ文庫」で、歌舞伎に触れている。...この場面は日本のきわめて様式化された演劇、カブキを思い起こさせた。現実離れしたセット、凝った衣装、大胆な化粧、かつら、大げさな感情表現、俳優たちのいかにも芝居がかった身振りなどは、アメリカのプロレスと同様、日本の伝統的演劇にも滑稽な印象を与えてしかるべきだろう。ところが、なんらかの神秘的な

効果により、カブキは知識の豊富な観客にとって、親指をすばと切る剃刀(かみそり)のごとく現実的なものになるのだ...。▼歌舞伎の知識はほぼ皆無だし、クインツがどれ程歌舞伎に通じているのかも知らない。しかし、この表現には惹かれるものがある。▼教会学校で聖劇が上演された。例年になく演出上の工夫もあったが、毎年似たようなものだ。観客は、筋書は勿論、この次、誰がどんな台詞を言うのかまでよくよく知っている。意外性は全くない。しかし、この聖劇は必ず

観客に受け入れられる。クインツの言う通り「なんらかの神秘的な効果により、(聖劇)は知識の豊富な観客にとって、現実的なものになるのだ」。

▼クリスマス礼拝そのものが、この通りだ。神の力が働かなければ、礼拝は礼拝ではない。神が共にいて下さることによって、礼拝は礼拝になる。一方「知識(むしろ信仰)の豊富な観客(教会員)」がいなければ礼拝は成り立たない。▼ところで、CS生徒が欠席し、ヨセフとマリヤは、急遽80歳近い実の夫婦が演じた。リアリティーがあった。

編124編4節、5節)と歌われる。
今、この信仰が問われる衝撃が信仰者を襲う。
「大水に押し流されてしまったのだ」。

「驕り高ぶる大水が沢山の命を飲みつくしてしまっ

た。大国の軍勢力によって凄まじい破壊がなされ多くの命が吞み込まれイスラエルの国は滅ぼされてしまった。

多くのものがバビロン捕囚という苦難の道を歩まなければならなかった。

この時、「神の存在」が問われ、信仰が問われる。「それでも、あなたは神を信じますか」と告白される。

「主をたたえよ。主はわたしたちを敵の餌食になさなかった。仕掛けられた網から逃れる鳥のようにわたしたちの魂は逃れ出た」(詩編124編6節、7節)と歌われる。

バビロン捕囚という苦難の中で、絶望の底で神に深く出会うという経験をした信仰者は断固たる告白(8節)に導かれる。

波が町を襲う、その跡はまさに「戦場」のようだと報道された。
イスラエルの歴史は、このような危機の連続の中で、「神の存在」が問われる歴史だ。

この現実の中で、この苦難の中で、イスラエルの信仰者は「それでも、わたしは神を信じます」との、断固たる告白へと導かれる。

「主をたたえよ。主はわたしたちを敵の餌食になさなかった。仕掛けられた網から逃れる鳥のようにわたしたちの魂は逃れ出た」(詩編124編6節、7節)と歌われる。

バビロン捕囚という苦難の中で、絶望の底で神に深く出会うという経験をした信仰者は断固たる告白(8節)に導かれる。

波が町を襲う、その跡はまさに「戦場」のようだと報道された。
イスラエルの歴史は、このような危機の連続の中で、「神の存在」が問われる歴史だ。

この現実の中で、この苦難の中で、イスラエルの信仰者は「それでも、わたしは神を信じます」との、断固たる告白へと導かれる。

「主をたたえよ。主はわたしたちを敵の餌食になさなかった。仕掛けられた網から逃れる鳥のようにわたしたちの魂は逃れ出た」(詩編124編6節、7節)と歌われる。

バビロン捕囚という苦難の中で、絶望の底で神に深く出会うという経験をした信仰者は断固たる告白(8節)に導かれる。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見

福島県の被災地域にある教会のクリスマス

主に思い起こしていただく役目の者よ
決して沈黙してはならない
…イザヤ 62…6

2011年のクリスマス、東日本大震災の被害を受けた諸教会は、どのようにこの時を過ごされているのかと、心配しないキリスト者はないと思う。教団新報では、紙面の都合もあり、この度は、福島県内の数教会を対象に、左記のように、簡単なアンケート調査を行って、近況をお知らせいただいた。

①2011年クリスマス礼拝での特徴的な出来事。②2011年クリスマス礼拝出席者について(人数を含め、構成等)。③「教団新報」を通して、アピールしたいこと等。回答を頂いた5教会のクリスマス模様を、報告する。

原町教会・朴貞蓮牧師

①特別に礼拝で特徴的と言えるようなことはありません。

例年通りのクリスマス礼拝を捧げることが出来たことが私たちには何よりうれしい出来事でした。

礼拝を捧げ、愛餐会を行い、保育園の職員でクリスマスの賛美を2曲歌ってくれたのと、「感謝します」ーリビングプレイスよりー

名、職員の子ども(1名)。③まず、教団の諸教会の皆様へ感謝を申し上げます。

当初は原発事故の収束が見通せない中でしたのでクリスマス礼拝を考える余裕ありませんでした。目の前の課題に心が重くなることもありましたが、皆様のお支えによりこの町でクリスマスを祝うことが出来ました。

②29名(女性24名、男性4名、子ども1名)

教会員(16名)と保育園の職員(5名)、求道者(5名、原町在住の警戒区域にあるバプテスト教会員(2

クリスマス・イブ賛美礼拝」を地域の方々、教会員の家族、



原発 30km 圏内にある
原町教会、原町聖愛保育園

7月、8月は教会も保育園も「除染」のことで大いに悩まされ、疲れました。原発から30km圏内であるということ、それまで遠慮していたボランティアをお願いしましたが、30km圏内にはボランティアを派

遣できないということでした。教会員と職員、地域の方、カンパランド長老教会の先生方や東京にある目白教会の青年たちに助けられ第一次の除染をやつと終えました。その大変さと思うと2回目を考えるだけで気が遠くなりそうです。

「除染」のための国や東京

電力、市からの補助は限りがあ、しかも現実に見合っていない。この町で生きる人たちがいることを引き続き覚えて頂ければ幸いです。

鹿島栄光教会・佐々木茂牧師

①②礼拝出席者は、普段から、4〜6人、内4人は牧師と家族。特別なクリスマス礼拝を持つことはありません。

③教団議長の訪問をいただき、会堂建て直しの方針を確認できました。感謝。クリスマス前の週報に、

以下のようなことを記しました。思いを汲み取っていただければ幸いです。《週報から》12月4日

待降節の中で、年末年始を想う。

最近「悼む人(痛む人?)」という言葉に巡り逢っていただいています。「でこのほう」のような気持ちで「悼む人(痛む人)」に「私もなりたい」と想っています。

「3月11日」ゆえに?にもかかわらず、ザカリヤやエリサベト等と共に「慰め」と「希望」とを受け伝えつづけたいと願っています。

常磐教会・武公子牧師

①半壊の会堂にて最後のクリスマス礼拝を守りました。

②教会員11名・来会者9名合計20名

③1、この度の原発事故の出来事には神さまからのメッセージがいついつま

っていると思います。多くのいのちをおびやかす、犠牲にし、人間の生活をおとしめる原発の即刻廃止を強く求めます。

2、この被災地で生活し

ていかねばならない人たちが多勢います。それは教会の信徒とて同じです。会堂再建が可能なか不安の中にある被災教会のため、これからもお祈りとご支援よろしく願ひいたします。

《週報の裏面から》

教会への招き…常磐教会では、毎日曜日、午前10時30分〜11時30分まで礼拝を行っております。礼拝は讃美歌を歌い、聖書を朗読し、

郡山教会・丹羽利夫牧師

①聖餐式を執り行った他には、特別のことはありません。

②73名

③福島は放射線の問題を長期間抱え込むことになりましたが、キリストの体なる教会の形成をめざしてがんばっています。



→クリスマスに、無人の街をさまよう、飼う者のない牛 ※この3枚の写真は、本文とは直接の関係はありません。



→簡易な線量計では計測不能←倒壊した民家、311のまに

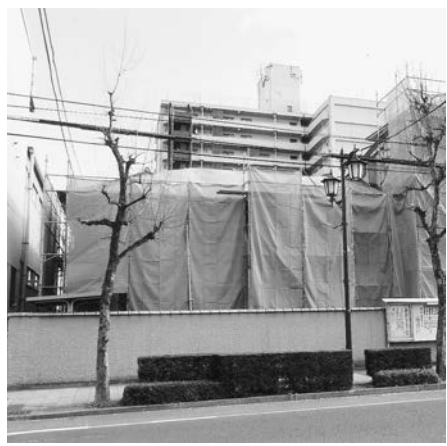


福島新町教会・瀧山勝子牧師

①毎年、CSの子供たちと合同クリスマスを行っていますが、学校が休みになり、すでに京都に避難し、クリスマスにも、子供(CS)は誰も出席しませんでした。ただ一つ、青年たちが聖歌隊を形成し讃美奉仕をしてくれ、皆が励まされました。

②今年3・11の震災後、中旬礼拝堂の修復工事に入り、やっと3階の塔の屋根と十字架が取り付けられました。これから2階の屋根

まわりの入る予定です。来年の4月頃には修復終了の予定です。教団、教区よりの沢山の献金、全国の方々のお祈りありがとうございます。御祈祷下さい。



改修工事が始まった福島新町教会、正面玄関から見た様子

全目標額10億の5割を担うべく

東京教区 募金の取り組み

東京教区は、中越地震以来、能登半島地震、東日本大震災に際し、一貫して特設委員会を設け、募金活動を積極的に進めてきた。中越、能登募金は、実質2年半でそれぞれ目標を達成したが、中越募金の3年目に能登半島地震が発生し、能登募金3年目の年度終了直前に東日本大震災が襲った。

従って、大災害に対する募金の特設委は05年度以来連続7年間、切れ目なく続いているので、常設委員会と異なっており、委員の変動が殆ど無かった。各支区3人の計15人、東日本大震災では、宣教協力学校協議会、

日本キリスト教社会事業同盟各1人が加わって17人体制となったが、委員長（永井清陽）、委員も半数が一貫してその任にある。その結果、募金活動に通じた人が各支区に誕生することとなった。

東京教区が大災害の度に特設委を設けているのは、中野・杉並区、市部、西多摩郡を除く東京都と千葉県に5支区、256教会という広大さにあるだけでなく、教団紛争で長い間、教区総会を開催出来ず、その結果として、実質的な活動は支区が行い、教区は連絡・調整役という東京教区の特徴がある。

地域の特徴から来る支区の個性が出るのは当然のこととて、そこに東京教区の幅の広さがあるが、募金運動の際に、教団委員会（今回は本部）の呼び掛けだけに任せておくと、募金運動はなかなか浸透しにくい。特設委で、きめ細かな呼びかけをするよう努めている理由はそこにある。

東日本大震災募金は、東京教区を取り組み方を大きく変えるものとなった。中越地震1億8,000万円、能登半島地震1億5,000万円目標に対し、東日本大震災では、教団創設以来最大の10億円という目標金額の大きさだけでなく、募

金成功しないことは、自明の理だからである。東京教区の個性豊かな、幅広い特色を活かすべく、特設委では、これまで募金方法を一本化せず、支区の独自性に任せて来た。教会ごとの目標を設定する支区、教会ごとの世話人を選出する支区、メール通信を多用する支区など、さまざまである。だが、東京教区が中核を担うとなると、単なる調整役では目的の達成が困難なことは明瞭で、募金方法の変更を迫られることとなった。

検討の結果、東京教区は、大災害募金で初めて献金袋の配布に踏み切った。全教会・全員参加型の募金でないと、達成は無理と判断したからである。教団は、いま現任陪餐9万2千人。1人1万円、500円を献げると、10億円は22万月で達成出来る計算になる。これが叶わぬ現状では、東京教区でこれを適用しようと考えた。

教勢に若干の下降減少が見えるものの、東京教区は現任2万人弱を数える。現任全員を募金対象とするのは、現実的でないのが、平均出席1万1千人を対象とした。1万1千人が毎月500円を献げると、5年教区常置委の定めた募金期間で3億3,000万円になる。試算の根底には、この数字があるが、討議の過程で「500円は重い」との意見が出て、「毎月400円以上」の呼びかけとなった。

10月末に献金袋の配布を終えたばかりで、どの程度浸透したか、今のところ不明だが、中越募金73%、能登募金60%に終わった献金教会比率を100%にもって行きたいというのが、委員会全員の願いであり、礼拝に出席する者全員が毎月いくらかでも献げる動きが、広がりを見れば、時間は掛かっても、ゴールは見えてくると信じている。

(永井清陽報)



11号室、前北未央職員、加藤誠幹事、多忙を極める

12月2日、教団会議室にて、教団救援対策本部第7回会議を開催した。限られた時間の中で、被災地支援活動、教会再建・復興に向けての支援の検討など、多くの案件を取り扱った。開会の後、国内募金総額が1億8,288万2,056円、海外からの献金総額が1億8,362万4,064円となっていること、および、救援対策本部会計が資料により報告された。

次に、前回委員会において立ち上げた海外献金プロジェクト小委員会より、仙台エマオの専従者公募、エマオ石巻の専従者候補の検討、自殺防止センターの活動支援、会津放射能情報センターへの活動費援助等のことを扱った報告がなされた。

続いて、教団救援対策本部事務局(通称「11号室」)より、西南ドイツ宣教会(EMS)からの指定献金の使途に関する提案(放射能被害を受けた教会付属幼稚園・保育園の入園・保育料減

区における被災教会の再建・復興支援など)、教団教師委員会による被災地域の教師問安の報告、救援対策本部ニュース発行報告、震災1周年記念集計計画の報告、教区議長会議報告等がなされた。

審議事項においては、海外献金プロジェクト小委員会の委員長が「11号室」の報告(被災教会および関係施設等の最近の様子、各教

取り上げるべき案件の整理や緊急性がある事柄の決裁を行なうこと、また、同小委員会の委員に石橋秀雄本部長を加えることを決めた。

続いて、EMSからの指定献金の使途の決定、アパート契約の承認、堀川愛生園および牧人会の建物改築費補助の決定をした。なお、奥羽教区を通して出された

放射線測定器購入補助申請に關しては今後継続して検討することとした。

その他、募金達成の検討、2012年3月11日に向けての集金開催準備、支援基準作成の検討(關連して關東教区からの要望に關する検討)等を扱った。

次回は1月10日、教団会議室にて開催する。

(雲然俊美報)

入園・保育料の減免分支援等決定

教団救援対策本部第7回会議

11月22日に東京神学大学、農村伝道神学校を、11月29日に東京聖書学校、日本聖書神学校を問安した。

各神学校独自の課題もあるが、共通していたのは学生数(特に若い献身者)の減少、教師として立てられ

てからの継続教育(メンタルケアも含めて)であった。教会が献身者を送り出し、大学が神学生を育て教会へ送り、牧師と信徒によって伝道の業がなされて新たな献身者を生み出す。このサイクルをいかに構築してい

くかが、明日の教団の大きな課題である。

また教師委員会として東日本大震災を覚え、震災をりなくたがが多い。

③人事異動(地震とは関わりのないが、多い。

④教区として謝儀援助はあるが、十分ではない。

⑤放射能のことは現地では懸念されており、それに対

被災教会牧師を問安、生活状況を把握

第3・4回教師委員会

第3・4回教師委員会

10月25日〜27日に委員2名、幹事1名で、東北教区(相双・宮城地区、福島地区、いわき・郡山地区)内の13教会を問安した。

①現地の方々が仙台と比較して福島は忘れられているという思いを持っている。

②津波被害は後片付けや再建などによって前に向かっていく面があるが、原発事故は後退していく面だけである。

③人事異動(地震とは関わりのないが、多い。

④教区として謝儀援助はあるが、十分ではない。

⑤放射能のことは現地では懸念されており、それに対

消息

木本勝子氏(隠退教師)



11年9月30日逝去、89歳。大分県に生まれる。'56年日本聖書神学校卒業、同年大飼教会に赴任、同教会を'93年まで牧会し、隠退した。遺族は姪・佐藤郁代さん。

古堅宗伸氏(隠退教師)



11年10月1日逝去、71歳。沖縄県に生まれる。'68年日本聖書神学校卒業、新井教会に赴任、'79年まで青海教会を牧会、同年教師退任、'03年復帰、'08年まで志村栄光教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・古堅あさ子さん。

西堂 昇氏(隠退教師)



11年11月9日逝去、94歳。埼玉県に生まれる。'41年青山学院神学部卒業、同年鉏路教会に赴任、生込教会、本郷中央教会、東京愛隣教会、八戸柏崎教会、仙台五橋教会を経て、'78年より'88年まで本多記念教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・西堂ワツさん。

《お詫び・訂正》			
「東日本大震災救援対策本部ニュース Vol.01」(11月25日発行)に差し込みました、会計報告訂正版の【支出の部】3行目(見舞金の下)に次の行が抜けていました。お詫びして訂正いたします。			
委員会費	4,500	1,866,660	1,871,160
委員会費(東日本大震災シンポジウム開催費含む)			
◎お問い合わせ: 03-3202-0543 計良祐時(財務幹事)			

《お詫び・訂正》	
2011年11月に送付いたしました「2010年度教育委員会クリスマス献金報告」に、「岩国東5,300」を追加いたします。	
また「岩国② 11,382」を、「岩国 6,082」とします。関係教会にお詫びして訂正いたします。	
教育委員会	

創立60周年記念 礼拝・感謝会

日本盲人キリスト教伝道協議会

2011年8月7日に創立60周年を迎えた日本盲人キリスト教伝道協議会（略称：盲伝）の記念礼拝・感謝会が、11月29日午後2時から、戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）において行われた。100名近い出席者が与えられた。

第一部・礼拝では、大村栄牧師（日本基督教団阿佐ヶ谷教会）が、ル力による福音書13章1～9節から、「わすれない」という題で説教した。

大村牧師の父、大村善永牧師は1975年から4年間、盲伝の議長を務めた。その父に連れられて、子供のころ盲伝の集会、修養会などにも参加していたこと、会場に懐かしい顔を見ることとができて嬉しく思う、と、盲伝との深い関わりが明らかにされた。そして、話を進める中で、最近夫を亡くした、教会のある夫人の言葉が紹介された。「わた



会場の戸山サンライズ、100名近い参加者を得て



議長・日高馨輔氏（左）、副議長・鳥羽徳子氏

ればならないと思う。後半のたとえ話に登場する園丁に、主イエス・キリスト

トのお姿が示されている。私たちのために必死に神に執り成しをしてくださるお姿である。それだけでなく、主イエスは私たちを贖う死を遂げてくださった。このキリストによって与えられた歴史を忘れないで次へ伝えていく。さらに、東日本大震災で亡くなった人々の死の意味を歩みに貢献した人々のことを忘れないことは大切だが、まず、この神の恵みを忘れない者たちでありたいと、大村牧師は結んだ。

第二部の感謝会は、盲伝10周年のときに、高木正治郎氏が作詞し、鳥居忠五郎氏が作曲した「盲人伝道の歌」で始まった。盲伝議長挨拶において、日高馨輔議長は、決して平坦な道ではなかった60年の歩みの中、これまで支援及び協力をしてもらったすべての人々に対して謝意を表した。そして、この60年の歴史に立ち、より新しい盲伝を志向しつつもイエス・キリストに従い、さらに歩みを進めていく決意であると述べた。要旨は次のとおり。

点字聖書の出版と普及を、聖書協会と盲伝が協力して進めて

きた。点字聖書は通常の聖書発行の約30倍の製作費がかかるにもかかわらず、すべて一冊100円で頒布している。この価格の差をなくするために、聖書協会募金部は、全国に点字聖書製作支援献金を呼びかけ、毎年温かい支援が全国各地から寄せられている。（菊地義弘氏）

盲人の方々を誘導する手引きのボランティアを組織する働きを任せられたことがある。その過程で、実は助けているつもりが、実は助けられていたという体験をし、晴眼者がとつてい及ばない鋭い感覚をもつ盲人の人たちから多くのことを教えていただいた。（有澤樽年氏）

視覚障がいと、女性であることが重なることは、開発途上国では、想像を絶する過酷な状況をもたらす。しかし、それにもかかわらず、inclusive教育という世界の潮流の中で、その状況が見落とされている。その中で、盲伝が、アジアへ活動の輪を広げ、特にバンクラデシュにおいて、視覚障がいをもつ女性たちの自立への支援活動が、並々ならない困難の中、粘り強く続けられていることに対して、心からの尊敬と声援を送りたい。（中澤恵江氏）

千年に一度の苦しみを与えることを、神様はどうしてお許しになったのだろと考えているうちに、苦しみを与えたのだから、神様は次に千年に一度の祝福をくださるに違いないと思うようになった。それは具体的に何かかというと、魂が渴き、人

間性を欠いているこの現代の日本に、愛されている喜びが満たされることである。そのためにはまず、障がいを負っている人々が、主イエス・キリストの福音に満たされて喜びにあふれなければならない。しかし、教会には今そのための霊的エネルギーが不足している。神様が盲伝を豊かに用いて、これから先の日本のキリスト教会を、日本を再生する霊的エネルギーを生みださせてくださることを願っている。（大塚野百合氏）

さらに、祝電・祝辞披露、出席者全員による自己紹介があり、多くの思い出と共に、盲伝への感謝と期待が述べられた。その中で、大村栄牧師のように、親が盲伝に関わる中で、自らも関わりを持つようになった盲伝2世という言葉が数人から聞かれた。今後も盲伝の歩みが続くことを期待させる神様の恵みであらう。

（秋葉恭子報）
◎日本盲人キリスト教伝道協議会（盲伝）とは
盲伝は、視覚障害の有無に関わらず、信徒が手をたずさえ、キリスト教各派が協力して生み出した超教派の総合的な視覚障害者伝道団体である。1948年、ヘレン・ケラー女史が総裁を務めていたアメリカの視覚障害者伝道団体ジョン・ミルトン協会の支援によって、1951年8月に、日本盲人伝道協議会が生まれた。

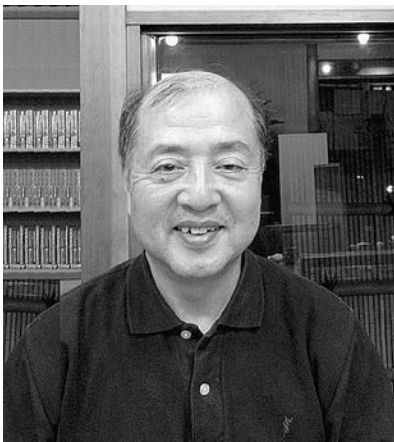
1978年に同協会からの支援は終了し、その後は自立の道を歩んでいる。創立以来、教派を超えて、多くの人々に支えられ、さまざまな使命と役割とを神様から与えられて、活動を続けている。

（盲伝・パンフレットから抜粋）



森里 光生さん

信徒としての献身に生きる



1945年生まれ。愛媛県出身。遠州教会員。

父親と兄が牧師である。自らもその道に進むことを意識しなかったと言えは嘘になる。しかし、その道が示されることはなかった。ひよっとすると、そんな信仰者は少なくないのかもしれない。

愛媛県で生まれるも、父親の転任に伴い、間もなく大阪の豊中に。以後27歳まで豊中教会で過ごす。信仰の土台は豊中教会で培われた。

中学2年の時に信仰告白をするも、牧師の息子としてのプレッシャーを感じることが多く、同世代の優等生たちとなかなか交わることができないなど、教会では苦い思いをするものもあった。そんな中、兄が献身をする。当時の牧師の生活の厳しさ

を知るが故、自分が兄を様々な面で支えることがあるかもしれない、そんなことを思ったと言

大学生時代は、紛争真っ只中の時代であった。教会も紛争に巻き込まれ、野次と怒号が響く中で、の礼拝を体験する。異常な礼拝体験だったと振り返りながら、しかし、その経験が現在の自らの礼拝姿勢を確固たるものにしたという。

そんなことがあっても集中して御言葉に耳を傾ける。子供が騒いだくらいで説教が語れない、説教が聞けないなどという言い訳は、この人には通用しない。

東日本大震災の発生から、まもなく一年が経とうとしている。緊急時の支援においては、教団を挙げて、また各教区毎に、精一杯の支援が行われたことを、あらためて感謝申し上げたい。

しかし現地では、ボランティアの減少や政府の無責任な原発事故収束命令停止宣言などによって被災地の現実が覆い隠され、忘れ去られようとしているのではないかと、危惧を抱かざるを得ない。

教団の支援体制は間もなく長期支援に移行しようとしている。地域社会への支援の継続と共に、こ

被災地復興は長期支援期に

仕えるためにこそ、教会の体の再生が急がれるのである。この機に当たり、教団としては教会再建のための支援が公平かつ明瞭なものであることを願い、被災三教区の議長を中心に、再建資

金配分のための委員会を立ち上げ、支援基準の作成に当たっている。各教区で取りまとめた頂いた支援要請は十数億に上る。信徒一人あたり二万円を献げること、この必要が満たされるというのが、現時点での試算である。これが困難な方、また困難な教区もあるであらう。皆で知恵と力を出し合い、出来る限り被災地と被災教会の求めにこたえるものでありたいと思う。教団募金への協力を、心よりお願い申し上げる次第です。（教団副議長 岡本知広）